# 自由・自治都市 堺の挑戦
## ～なぜ、私は大阪都構想に反対なのか～

堺市長
竹山　修身

**竹山修身（たけやま　おさみ）**

1950 年、大阪府堺市出身。静岡大学人文学部を卒業後、1975 年に大阪府庁入職。南河内群美原町（当時）助役、総務部人事課長、府議会事務局長、商工労働部長、政策企画部長等を経て、2009 年に堺市長選挙に立候補し、当選。2013 年 9 月、再び堺市長選挙に出馬し、史上最多得票で再選を果たす。趣味は読書、アメフト観戦、スポーツ全般（講道館柔道六段）。座右の銘は「念ずれば通ず」「一以貫之」。

### ■堺市長への挑戦

**竹山**　ただ今、ご紹介頂きました堺市長・竹山でございます。龍谷大学の皆さんと自治都市・堺について、また大阪都構想についてなぜ私が反対したかをお話できる事を嬉しく思います。私が自治都市についてどういった思いを持ち、約 5 年間仕事に就いてきたかをできるだけ分かりやすくお伝えしたいと思います。

私たち堺市民は、昔から自由・自治都市としての誇りを持ち「ものの始まりは何でも堺」と言い、「オンリーワンのまちづくり」を常に意識しています。「堺から世界に」を合言葉に、SMAP さんの楽曲をお借りした「世界に一つだけの堺」というキャッチフレーズで売り出しています。お配りしたレジュメの表紙は旧堺港にある日本最古の木製洋式灯台の写真で、前述の思いからこの風景を表紙に選びました。

また、旧堺港に日本ノボパン工業（株）という会社があり、大規模な工場の壁面をお借りして幅 155 メートル、高さ 11 メートルの巨大壁画を作りました。諸外国が日本に上陸し南蛮貿易で栄えた中世の堺港にタイムトリップできると評判になっていますので、ぜひ堺に足を運んでご覧になってください。

まず、「なぜ堺市長になりたかったのか」をお話させて頂きます。

冒頭に大矢野先生からご紹介頂いた私の著書『訣別』にも書いていますが、私は昭和 50 年に大阪府職員に採用され、平成元年に美原町の助役に出向になりました。人々の生活やまちづくりに直結する基礎自治体の仕事をさせて頂き、本当におもしろいと感銘を受ける一方で府の仕事は直接府民の生活に行き渡らないと感じました。

当時の堺はラスパイレス指数が日本一と市職員の給与も高く、財政力もあったためいろんな意味で放漫な財政運営をし、ずっと天下りの助役が市長になっていました。私は堺で生まれ堺で育った堺市民こそが市の経営をすべきだと考えながら、堺に暮らす一市民として隣町・美原町で働きながら故郷をウオッチし始めました。

平成 13 年春、商工部商工振興室長に就いていた 50 歳の時に突然、堺商工会議所の会頭さんから「市長選挙に出馬しないか」というお誘いを受けました。先にお話した通り私は堺市政をウオッチしながら「堺を変えたい」と思っていたので、「前向きに考えたい」と答えましたが、政財界の方々が調整されたんでしょう、その働きかけがピタッと止んだんです。50 歳と年齢も若く、商工部商工振興室長という次長級のポストに就いていた私に、「堺市の助役は府の部長級だ、なぜ若い次長級の奴に市長になってもらわなければならないんだ」と反対があったと後で聞きました。声をかけて頂き前向きに考えたにも関わらず候補者にもなれず、その選挙では従前どおり市の助役を経験した府の OB が与党の大勢のなか当選しました。彼は堺市の生まれでも出身でもなく助役を 2 年数ヶ月務めただけの方でしたが、彼の市政が堺市民にとって本当に良いのかどうか、しっかり見極めようと決意しました。

59 歳になった私は「定年になる前にこれからどう生きるのか」を考え、やはり一度志した市長選挙に清水の舞台から飛び降りる覚悟で出てみようと考えました。

レジュメに「平成 21 年 7 月　無謀な退職」とありますが、部長を長年務め橋下氏の官房長官として政策企画部長を務めていた時です。橋下氏には話さず、8 年前に相談した方々にもう一度相談に行ったんですが、プレスにバレてしまいました。ある朝突然旧知の新聞記者が自宅を訪れ「『市長選出馬を模索』と記事にする」と言われました。忘れもしない 6 月 12 日のことです。そこで橋下氏に「出馬記事を書かれるかもしれない」と伝えました。知事は驚かれましたが「おもしろいのでは」と、「あなたのような人が市長になってくれたら大阪府の市町村も随分と変わるだろう」とおっしゃいました。

翌々日、月曜日の夕刊に「大阪府の部長が堺市長選挙に出馬」の記事が掲載されました。もう引き下がれなくなり、議会終了当日に辞職、市役所で記者会見続いて街頭演説を行いました。7 月 3 日、梅雨の冷たい雨の中、支持者も何名か来てくださいましたが、皆さん一様に驚いていました、私の演説の下手さに。それはそうです、公務員でしたから。街頭での演説なんてしたこともない、本当に情けない状態でした。自民、民主、公明、社民までが付いた現職候補に勝てると思ってもいませんでしたが、定年退職して天下りするのではなく、人生で一度、自分の思ったことにチャレンジしたいと、家内にもお願いして決めました。

誠会事務局長時代の部下の一人がついてきてくれ、4 人の子どもの末っ子がミキハウスに勤めていたんですが、社長が一風変わった方で「休職して選挙の手伝いを」と言ってくださいました。とはいえ、事務所は選挙事務所とは思えない状態で選挙に挑む体制はまったく整っていませんでしたが、中学の同級生や府庁の OB らの助けを得て草の根作戦を行いました。

潮目が大きく変わったのが 8 月 30 日、第 45 回衆議院議員総選挙の民主党圧勝でした。「私の選挙もチェンジだ。馴れ合いでやっていては駄目だ」と、この選挙結果を受け橋下氏も参戦してくださいました。私は、堺の中心市街地の東西 1.7 キロを結ぶ新公共交通機関・LRT 導入（予算 450 億円）反対を必死に訴え、43.93％という過去最高の投票率のなか 13 万 6,212 票を獲得。現職に 5 万票近く差をつけて圧勝しました。市会議員は皆さん相手方についてらっしゃいましたが、負け

るとは思ってなかったそうです。でも私は8月30日に流れの変化を感じていましたし、選挙戦終盤のシルバーウィークには有権者の目に見える変化を感じ取っていました。そして名古屋の河村市長、松山の中村市長（現愛媛県知事）らと共に首長連合として「地方から変える」を目指しました。

### ■大阪維新の会との関係

私の圧勝が「橋下不敗神話」の始まりでしたが、橋下氏には私を応援することで自身の政治的な運動を広める思惑がありました。橋下氏の著書『体制維新―大阪都』にも書かれていますが、その一例が大阪南港の埋め立て地に建設したものの閑古鳥が鳴く高層ビル・WTCに大阪府庁を移転させる議案でした。私が府庁に在籍中の2月議会で否決されていたんですが、それを何とか可決させたい橋下氏の思惑と市長になりたい私の思いが重なり圧勝に繋がりました。

翌年1月､橋下氏は「大阪都構想」を発表、4月に「大阪維新の会」という地域政党を発足させました。6月には維新の会初となる大阪市福島区補欠選挙が行われ自民党や共産党を相手に圧倒的な勝利を納めました。続く生野区補欠選挙にも圧倒的勝利を納め、平成23年の統一地方選挙では大阪府議会の過半数を大阪維新の会が占めました。私の市長選挙を機に維新の会は大きく勢力を伸ばし、大阪市でも堺市でもNo.1の議席を持つ政党になりました。

しかし、ご説明したように私が市長になった時点では、大阪都構想も大阪維新の会もなかったんです。今でも誤解されていますが、私は都構想や維新の会に賛成して市長になった訳ではありません。維新の会の推薦で市長になったけれども2度目の選挙からは袂を分かつことにと言われますが、維新の会に推薦して頂いた事は一度もありません。特にこの点は皆さんに確認して頂きたいと思います。

平成23年11月、橋下氏が大阪市長選に合わせて知事を辞職し出馬、知事選には腹心の松井府議を立て共に大勝しました。翌年2月、橋下氏と松井氏から「大阪都構想を認め法定協議会の前の議員協議会に入ってください」との申し入れがあり、私は悩みました。市議会は「入るだけなら良いのでは。 議論をしてくれれば良いじゃないか」と言ってくれましたが、規約には「過半数以上の賛成がなければ脱退できない」とありました。要するに、一度入ると出られない。ある市会議員の「蟻地獄ですね」という言葉通りです。現在、法定協議会がもめて不毛の議論を重ね、100人以上の優秀な職員が作業し有識者や外部の専門家を擁しても何の成果を上げることもできず暗礁に乗り上げています。だから維新の会は強硬手段で民主党、自民党の委員を自分達の議員に差し替えると言っています。

先日、府議会の議長と副議長が来られたので、「大阪府議会の歴史と伝統は民主的な話し合いをするところにある。議長、頼みますよ」と言うと、議会運営委員会の委員長でもある彼が「私は法定協議会に関与していないので」とおっしゃいました。「あなたが仕切らないで誰が仕切るんですか」と言いましたが、現在、法定協議会は大きく揺れています。あの時入らなくて良かった、無駄な税金を使わず無駄な議論をしなくて良かったと思っていますが、松井氏は「堺市長選に対抗馬を出さなければ」とおっしゃいました。そして昨年9月の選挙となり、対抗馬にはタレントや代議士など様々な噂がありましたが、最終

的に当時の同会派市会議員の幹事長が出馬しました。私たちは「堺を無くすな。堺はひとつ、堺のことは堺で決める」「隣の市長に指図され分割するようでは、堺は駄目になる」と訴えて闘い、5万8,000票の大差をつけ圧勝しました。堺市民は「堺は大阪都構想に馴染まない」と判断してくださったんです。これが「大阪維新の会の終わりの始まりだった」と私は思っています。

平成25年12月に「第2次堺ショック」が起こりました。日本一料金が高いと言われている泉北高速鉄道を外資系ファンドに売却するという議案が大阪維新の会から提案されました。譲渡すれば780億円の利益は上がるものの運賃は10円しか値下げできない。一方、南海電鉄の提案では750億円だが80円値下げできる。しかしそれ以前に利益目的、売却目的の外資系ファンドに大事な公共交通を売却して良いのか。この意見は市民からも出ていましたし、堺市議会でも維新の会を除いて決議しましたが、松井氏からの持ちかけで公開討論を行うことになりました。

私たちは泉北の住民が1,200億円もの利益を泉北高速鉄（大阪府都市開発株式会社）に供与してきたデータを示し、「料金の値下げが如何に泉北の子どもやお年寄りの活性に繋がるか。たった10円の値下げで安全性も約束できない外資系ファンドに売却するのは止めて欲しい。議案を撤回してください」とお願いしました。松井知事は「外国資本の導入は今後の日本経済発展に繋がるのに阻止するのか」とおっしゃいましたが、私たちは堺市関連の府議会議員の皆さんに「堺市民は泉北高速鉄道の値下げに大きく期待しています。しっかり判断してください」とロビー活動を続けました。

議決当日、夕刊各紙には「売却案可決」「可決の公算」の文字が踊っていましたが、私たちが最後まで諦めずロビー活動を続けた結果、維新の会の議員4人が造反。53対51で議案は否決されました。もし3人ならば52対52の議長採決で可決されたんですが、最低限必要な4人が地元住民の長年の訴えを真摯に受け止めてくださり過半数を割った。私はこれを「第2次堺ショック」と呼んでいます。

その後も維新の会は、市議会でも府議会でも離脱する議員が相次いでいます。次の統一地方選挙でもう一度「堺は大阪都に入る」という候補者を立てると言っていますが、私たちは絶対に阻止しなければと思っています。

### ■誇るべき「堺の歴史」と3つのDNA

私のモットーは「念ずれば通ず」です。「堺市長になりたい」と念じて、念じて、念じて、そして大事なのは実行です。職員にも同じ事を言い続けていますが、私をここまで駆り立てているのは誇るべき「堺の歴史」です。

4～5世紀、仁徳天皇陵を含む巨大古墳群がつくられました。仁徳天皇陵は2000人以上もの人々が15年以上の歳月をかけてつくったと言われていますが、大規模な土木工事が行われ多くの人が堺に集まっていました。京都や奈良の皆さんには失礼ですが、私は堺の方が歴史は古いと言っています。

そして中・近世は自治都市として繁栄。16世紀にオリテウスが描いた地図に書かれた日本の都市名はMIYAKO＝京都とSACAY=堺で、堺は東洋のベニスと言われ自由・自治都市と南蛮貿易の都として有名だったんです。

さらに近代は、大浜や浜寺という海浜リゾート地が発達。白い砂と青い松といった自然

豊かな海浜地帯を持つ高級住宅街を誇る町でした。しかし、そこを埋め立てて臨海工業地帯をつくり税収増を狙いましたが、増えたのは公害だけで大ピンチに。そういった負の遺産もありますが、現在の堺に至っています。

私は市民や職員に「堺人には3つの希有な遺伝子がある」と言っています。

一つは「南蛮貿易の遺伝子」。世界に飛び出し挑戦する遺伝子があり大切にしなければと。そして「匠の遺伝子」。大規模工事で古墳をつくり、銅器や鉄器をつくったのも堺周辺の人々です。それが包丁になり刀剣になり鉄砲になり、シマノの自転車になった。つまり、私たちは「ものづくりのDNA」を持っているんです。さらに「自由の遺伝子」。中世では自由・自治都市として栄えた堺です。千利休は京都ではなく堺の人で、豊臣秀吉の理不尽な要求に対して腹を切って自害しましたが、それは自己の茶の湯の道を曲げることができなかったから。そのおかげで現在三千家は隆盛を極めていますし、与謝野晶子は瑞々しい感性で女性を解放し新しい生き方を説いた。そういった「自由の魂」を堺人は持っています。

私は3つの希有な遺伝子についていつも話をしていますが、それは堺市民が持つ資産やスピリッツ、DNAがいかに大事かを知って頂くためです。堺に生まれ堺で育った人はもちろん、他の土地から来て堺の職員になった人にもこの遺伝子が入る。堺はそういったスピリチュアルな場所だと。京都にもスピリチュアルな場所はたくさんあると思います。堺には方違神社がありお参りしてから旅行に行くとされていますが、方違神社は摂津と和泉と河内の境界にあり、とてもスピリチュアルな場所です。私もお祭りで演説をさせて頂きましたが、「ここで演説させてもらえるなら勝てる」と感じました。そんなスピリチュアルな堺を大切にと常に言っています。

## ■政令指定都市・堺

私は「堺市発展の奇跡―堺はひとつ」とも市民の皆さんに言っています。つまり、歴史はしっかり覚えておこうと。

明治元年堺市は堺県であり、明治9年には奈良県を含むほど大きくなりました。奈良県が未だに関西広域連合に入らないのは、堺に併合された歴史が奈良にとって屈辱的だったからだと奈良県史にも書かれています。

その堺県は明治14年、大阪府に統合されてしまいました。竹内街道を中心に古代から行き交う経済力が大阪よりも堺にあったからで、ここで行われたのがまさに「都構想」です。たらればの話ですが、「もし堺県のままだったら、近鉄大阪線は阿倍野ではなく堺に引かれていた」と、私も郷土史家も思っています。

こういった歴史を経た明治22年、堺は京都と共に13市の一つとして日本で最初に市制を施行しました。当時の市域は環濠の内側だけで人口は3万数千人でしたが、周辺の向井村や三宝村と合併し徐々に大きくなりました。私が住んでいる北区黒土町は、昔は南河内郡金岡村大字長曽根字黒土と言われていましたが、昭和13年に堺と合併する際、村会議員だった私の祖父は市長の河盛安之介さんと合併について一年近く議論し、「堺に植木や農作物を提供する金岡と共に栄える」ということで合併したと聞いています。

そして平成17年、私が勤めていた美原町と堺が合併し現在の堺市が成立しました。私は合併の歴史は地域全体を一つにする「思い

の歴史、共通の歴史」だと考えます。アイデンティティを一つにするとの思いが詰まってこその合併協議ですが、都構想は30万人が適正だから堺を2つか3つに割ると言います。地域共存の在り方や市民の思いとは関係なく、分割する理由が効率だなんて住んでいる人間にとってはナンセンスなだけです。

もう一つ、昭和36年当時の河盛安之介市長は「100万都市構想」を謳っていました。善し悪しは別として、海を埋め立てて工場を誘致し山を切り開いて住宅地にして堺を100万都市にすると。その際、市民税は無料にするとも言っていたんですが、未だに徴収しています。大阪市と同じ政令指定都市になると河盛市長は言ったんです。堺はそれを目標に努力を続け、平成18年に政令指定都市になりました。45年の歳月をかけて手にした政令指定都市を今さら非効率だと言い、分割しようとは思いません。それは歴史に背き市民の思いに背くこと。だから私は歴史について語り続けます。

では、なぜ政令指定都市なのか。

政令市は行政サービスと財源の面で現行法制度上、基礎自治体で最高の保障を頂くことができます。例えば、教員を独自採用できる、子ども相談所を設置できる、国道・府道を一括に管理できる、都市計画決定ができるなどです。また、市街化を進める区域の線引きといった都市計画は大阪府に伺いをたてなければなりませんでしたが、現在は独自で決定できます。こういった権利とともに20数億円の宝くじ財源を頂いています。私はこの20数億円に着目し、子どもの医療費を中学2年生まで月々500円玉2枚＝1000円としました。それが財源と同額だったからですが、住民へのサービスを共有しながら政令市としてさらに向上できます。

現在、虐待や不登校といった子どもの問題は非常に深刻ですが、子ども相談所が保健センターや学校と連携しなければ適切な対応はできません。国からは「48時間以内に対応」という通達が出ていて大阪府は48時間対応ですが、堺市は土・日でも職員が常駐し通報から24時間以内に対応します。

子育てには子ども相談所の権限や教育の権限をしっかり持つことが必要ですが、政令市ではそれができます。「政令市になっても良くならない」とよく言われますが、それは違います。教職員を独自採用することで10年、20年後には堺市が好きで堺市で教員になりたい人が50％以上を占めるようになります。現状はまだ変化が分かりませんが、辞令で各市間を異動する教員とは教育の質が違ってきます。

次に「政令指定都市・堺の行財政改革」についてです。

堺は政令市になるために、そしてなってからもしっかりと行革努力を行っています。

事務事業の見直しでは、就任後の3年間で50億円、25年度は12億円、26年度も12億円の成果を上げています。手法は民主党の事業仕分けと同様ですが、「みんなの審査会」で市民からテーマを公募し議論、スクラップだけでなく内容によっては充実や強化も行うスクラップ＆ビルドの見直しを行っています。平成22年度のスタートから廃止8事業、強化・拡充11事業、改善56事業、改善効果額は約7.6億円と成果を上げ、今年も7月に実施します。

また、外郭団体の見直しも当然必要で、天下りと言われないよう経営状況をはじめ役員としての相応しさや勤務条件を外部有識者にチェックして頂きます。人件費も適正化を目指し、10年間で職員数と人件費の2割

削減を訴えました。組合側は怒っていますが、職員の給与も 25 年 4 月から 2 年間平均 3.1％カットしています。これは東北大震災後の国家公務員の給与カットにともない地方もできる限り準じて欲しいという国の通達に基づき職員の理解を得ました。現在給与は政令市の中で 5 番目に低く、ラスパイレス指数も 102.5 になっています。参考までに神戸は 107.0、京都が 105.4、大阪は 104.3 と堺より高くなっています。職員より先に私の給与をカットしなければ範を示せないので、平成 24 年 7 月から 2 年間 20％カットしましたが、職員と同様の来年 3 月まで期間を延長しています。さらに今後も「行財政改革プログラム」をしっかり立てて行うという目標を掲げています。

このように堺は平成元年、2 年のラスパイレス指数日本 1 位という数字と放漫な仕事ぶりを指摘されましたが、政令市になるには総務省が調査をしていますから、市サイドもしっかりとチェックすることで効率的、効果的にやろうとしています。給与も国家公務員を基本に地域の民間企業の状況を見ながら定めようと、組合の皆さんとの交渉にも出席しフランクな議論をさせて頂いています。

政令指定都市になってからの堺の経済は非常に健全です。

レジュメの「20 政令指定都市の財政状況」の図でもお分かり頂ける通り、堺市、相模原市、さいたま市の 3 市が優良市としてずば抜けています。実質公債費率は 4.9％と国が認める 25％を大幅に下回っています。18％を越えると起債許可団体に指定され、大阪府は越えそうなりましたが、借金をする際に国の許可が必要になります。

また、国は将来負担比率（連結借金額）を 400％まで認めると言っていますが堺市は 36.9％で、一般会計だけでなく水道や下水、その他特別会計を含めた借金の比率も非常に低くなっています。千葉市の実質公債費比率、将来負担比率が非常に危険な状態なのは前市長がインフラ投資をし過ぎたためだと言われています。

さらに、人口一人当たりの地方債（借金）は、堺市 41 万円、大阪府 63 万円、大阪市 99 万円で、大阪市はこれ以外にも「オーク 200」など裁判にかかっている様々な事業で何百億円という隠れ借金を抱えています。しかし、日銭を稼ぐというストロングポイントがあり、日々の収入や法人力がある点や財政規模は堺とは違います。

一方、将来のための実質公債比率には臨時財政対策債（臨財債）は含まれていません。本来臨財債は、地方交付税としてキャッシュで渡さなければないお金ですが、国に財源がないため国の借金を地方にさせ、将来的には利息も元本も交付税で渡すという仕組みになっています。臨財債を含めれば堺の借金はもっと多くなります。これをどう考えるかは、国全体の財政構造から考えなければなりません。

こういった中で「第 2 期 市政の基本方針」は昨年秋の公約をベースに「堺市マスタープラン 3 つの挑戦」として「子育て」「歴史文化」「匠の技」に徹底的にこだわる事を定めています。しかし、一番は「安全、安心なまちづくり」を最優先する事で、災害に強いまちづくり、つながり・絆の強化、そして自治は「都市内分権の推進」にあると常に言っています。区の権限と財源を強化し地域の実情に応じた取り組みの推進は、第 1 期 市政の基本方針でもあります。

### ■大阪都構想の見えない影

核心に入り、「大阪都構想とは何か」についてです。

私は大阪都構想をしっかりと理解して頂くために 106 回のタウンミーティングを開催し、平均 50 人の参加で 5000 人以上の方々に大阪都構想や私が目指すまちづくりを聞いて頂きました。

都構想は歴史的経過から言うと戦前からありました。大阪府は国の役人が知事になる官治行政のトップでしたが、大阪市は市民が市長を選ぶ。つまり戦前から官治と自治の闘いがあったんです。戦後すぐ五大市すべてが特別市運動を行い法律は改正されましたが実施はされず、折衷案の地方自治法として政令指定都市制度が創設されました。大阪市内は大阪市に任せるけれど、大阪市以外の大阪府は関与するというすみ分けを行ったんです。つまり、商店のアーケードが新しくなってテープカットする際、市会議員はさせてもらえるけれど府会議員はさせてもらえない。しかし、すみ分けを行うことでかえって二重行政が発生しました。りんくうゲートタワービル、WTC と高さが自慢の似たようなビルを 2 つも建てておいて、同じように閑古鳥が鳴いている。りんくうゲートタワーは外資系企業が、WTC は大阪府が買収しましたが、これこそまさに無駄の典型です。

もう一つは水道です。大阪府と大阪市は共に淀川を水源にしていますが、水余りで 100％操業の必要はないため「一つにしよう」とした橋下氏の提案は正解だったと思います。守口市の庭窪は大阪市の取水場と大阪府の浄水場が隣り合わせてあり、一つを止めても良いですし、新大阪の南にある柴島の浄水場は「半分は必要ない」と大阪市は言っていました。そこで柴島を半分廃止することで、橋下氏と合意しましたが、市議会を説得しきれませんでした。なぜか。それは当時橋下氏が慰安婦発言をしてしまい議会に出席できなかったから。私は水道企業団の企業長をしていますが、大阪全体にとって非常に残念な事態だったと思っています。

さらに大阪には府営と市営の 2 港湾がありますが、最近改善の兆しが見え一緒にしようとしています。これは民間の発想からしてもポート・オーソリティであり、神戸と共に民営化すべきだと思っています。

そして外郭団体。同じような外郭団体が市と府でつくられていますが、唯一、大阪府中小企業信用保証協会と大阪市信用保証協会が合併しました。中小企業の信用を保証する外部団体が二つあり、給与は銀行員並み処遇は公務員並みと言われていましたが、現在は大阪信用保証協会として営業しています。他にもたくさんある外郭団体の二重行政の解消は都構想によって一定の有効性があると考えられます。

かつて、地方自治研究会の中間論点整理で「大阪市内を新都シティに割る」という案がでました。私は事務局をやっていて、横浜国立大学の成田先生や京都では同志社大学の新川先生らに入って頂き議論をしましたが、研究会では決定に至りませんでした。自治法改正でも言われている調整機関をつくるべきであり分割するメリットは乏しいということになりました。

橋下知事は 22 年 1 月に「大阪都構想」を提唱し、4 月に「大阪維新の会」が発足。私は大阪都構想を推進するための会だと位置づけました。広域事務は広域自治体のためにあり、地域密着の事務は基礎自治体が担うと

いう理念は分かりますが、だからと言って政令指定都市を分割する必要はありません。現在、法定協議会では「大阪府は新たな広域自治体に衣替えし、政令指定都市から移管された財源や権限は大阪府に吸収。基礎自治体的な特別区を置く」といった議論がなされています。「30 万人がベストだ」が、いつの間にか「50 万人、60 万人」になっています。「30 万人が効率的」は合併の際に効率的だったからで、分割する際にその数字は関係ありません。

これらは東京都をモデルにしていますが、東京都の特別区は戦争を遂行するための分割であり、特別区の区長は今でも怒っています。ただ、東京一極集中で税収が上がっているから我慢しているんです。不完全な基礎自治体である特別区を真似する必要はさらさらないと思います。

続いて「大阪都構想への疑問」についてお話します。まず都構想は、地域や住民の連帯感やわがまち意識を分断・壊体します。

堺の子どもは小学校で「堺っ子体操」をします。大人になって東京に働きに行っても飲み会でやると言われています。その堺っ子体操はどうなってしまうのか。また、だんじりやふとん太鼓はどうなってしまうのか。地元の祭りは地域の連帯力で行われますが、分割されると一緒にだんじりを担ぐこともできません。京都が分割されると祇園まつりができないのと同じで、わがまち意識を分割する都構想は困ります。そして何より分割されると不効率です。良い例が八尾市で、人口は堺市の 1/3 の 27 万人で職員数は 2,250 人、議員数は 28 人ですが、3 倍すると現在の堺市よりも職員数は 1,266 名、議員数は 32 名も多くなります。統合のメリットが現れている現在、分割は不効率なだけです。

またイニシャルコスト、ランニングコストについて試算を要求しても沈黙を貫き、一番の問題点を無視したまま中身のない設計図を描いている、それが都構想です。

そしてもう一点。私は堺の税金が都構想でどうなるかを市民の皆さんに知って頂く事が最も大事だと思っています。堺市は 1,300 億円もの税金を頂いていますが、都構想の制度では 447 億円は都に移転され、特別区の財源としてはわずか 38％しか戻ってきません。昔は「3 割自治」と言いましたが、まさに「38％自治」です。市民の福祉やまちづくりに活かさなければならない基礎自治体の税源、固定資産税や法人市民税も 45％が都に吸収されては、現在行っている福祉サービスは維持できません。こういった数字を一切明らかにしないため、私は東京都の例に従って数字を算出しました。日本は一国一制度ですから東京都と同じ財政制度になるはずで、一言の説明もない大阪維新の会に対して「子育て支援や教育など政令市だからできていることができなくなる」と選挙で訴えました。

## ■堺の未来に向けて

次に「地方自治制度の再考」についてです。

人口減少社会・日本では消滅する町が出ると言われる中コンパクトシティの考え方が叫ばれていますが、一番大事にすべきは基礎自治体を中心とした行政の確立と補完性の原理です。地域でできることは地域で、区でできることは区でやり、無理なことは堺市でやる。それでも無理なことは広域自治体である大阪府にやってもらう。つまりはボトムアップが大事だと。地域が持つ権限確立の重要性はヨーロッパの地方自治憲章にも書かれていますが、成熟した社会で地域の人と人と

の結び付きがこれからの自治には不可欠だと考えます。

そして「二元代表制の活性化」について。私も含め首長の権限集中は危険ですから、いかに議会議論を活性化していくか、プロの議員を育成していくかが重要です。少子高齢化における基礎自治体の役割を考えるなら、財源の委譲をしっかりと受けて使途を徹底的に透明化すること。広域自治体と基礎自治体は役割を分担し、市民参加と協働で成り立つ地域や市をつくる。地域が一つになり共同作業をする「結の思想」を今一度再生するとともに、地域でビジネスを起こすことも大事だと思います。

そして「堺市にふさわしい都市制度について」お話します。堺は住民に優しい足腰の強い基礎自治体を目指しています。住民に身近な子育て、健康、医療、福祉、教育の各分野でさらなる一元化を求めると共に、住民自治を如何に充実させていくか。

堺では地域で子育てや教育を行う仕組みをつくるために、各区民協議会で「区民ボード（仮称）」をつくり、市民主体のまちづくりの仕組みを議論し、各区に「区教育審議会（仮称）」の設置を検討しています。人口84万人の堺に教育委員会が一つでは、痒い所に手が届く教育てはできません。区に教育の専門家や教育に造詣の深い有識者を置き、直接議論する環境を整えるといった検討も重ねています。

また、泉州の9市4町は関空ができてもなかなか繁栄せず、経済効果も出ていないため、堺が南大阪の中核的な役割を担いたいと考えています。堺が中心となって水平連携できるよう、例えば観光では他の市町と共に取り組みを行います。先日も台湾にプロモーションに行って来ました。災害対応も泉州・南河内地域と「災害時相互応援協定」を結び一緒に行っています。さらに南大阪で不足する救命救急センター（三次救急）の機能を備え、南大阪の救急医療の核となる新病院を整備するといった取り組みも進めています。

最後は「地域のリーダーシップについて」です。

私は地域のリーダーシップで一番大事なのは「市民目線と現場主義」だと考えています。さらに「見える市長」でなければならないと。本日の講演会の様子もツイッターで紹介していますし、日々の行動を知って頂けるよう未熟なIT技術を駆使してフェイスブックやツイッターを更新しています。公開すればヤマしいことはできません。クローズするからややこしいことになるので、徹底的にオープンにしています。

また、職員にも親方日の丸状態から脱却してもらうべく、ボーナスに差をつけています。無理がでる相対評価ではなく絶対評価で±0.10ヵ月の差を付けていますが、勤務評定よりもコミュニケーションを大事にし、目標設定と到達点の確認のためにもボーナスに差をつけるべきだと考えています。

そして、地域、職員、議会との協働です。市民の皆さんには「人がやってくれると思ってはいけません。私もやりますから」とお願いしています。リーダーシップはもちろんですが、メンバーシップ、良いメンバーになることも大事です。

また、シビックプライドの醸成はまさに地域リーダーシップです。その昔堺は36人の会合衆で自治されていました。私は市民が会合衆の代理人だと思っていますし、「堺のことは堺で決める」を徹底するには堺から発信する、堺をプロモーションする事が大事だと考えます。

また、百舌鳥・古市古墳群が平成 29 年度中に世界遺産に認定されるよう活動を進め、千利休と与謝野晶子の故郷・堺を世界にアピールすべく、平成 27 年 3 月には「さかい利晶の杜」、「晶子記念館」「茶の湯記念館」の開設準備を進めています。

さらにリゾート地だった堺で人気を集めた「大浜少女歌劇団」を 85 年ぶりに復活させようと、吉本興行（堺出身の大崎社長）とタイアップして劇団員の募集をかけ、賑わいを取り戻そうとしています。

こういった取り組みを通して市民が誇りに思えるまちをつくり、シビックプライドを高める。それが地域のリーダーシップに繋がると考えています。

ご清聴、ありがとうございました。

**［質疑］**

**［質問］** 私は京都の人間でこれまでよく分からなかった大阪都構想についてお話を伺い、概要を理解することができました。竹山市長は二重行政の解消には基本的に賛成とおっしゃっていましたが、法定協議会に入っておられません。法定協議会に入り大阪都構想的な考え方で二重行政解消について話し合うといったお気持ちはおありですが。

**竹山** お話していませんでしたが、堺は後発の政令指定都市で堺市と大阪市には二重行政がないため法定協議会に入るメリットがありません。唯一、政令指定都市になってから高速道路をつくらされていますが、これは返戻しようと思っています。別にもう一つ、府市統合本部といって広域自治体との連携を議論する場がありますが、そこで泉北ニュータウンの再生や府立大学の在り方等について協議する議会があり、そちらには呼ばれれば入るつもりでいましたが。

**司会** 「何をもって二重行政とするか」についてはいかかですか。

**竹山** 図書館や美術館が二重行政だとおっしゃる方もいますが、あればあるほど人が入ってくれるならある方が良い。私は「無駄の象徴、また基礎自治体の役割を越えたものを二重行政とする」といった提議をすべきだと考えています。

**［質問］** 今日の本題から少しズレてしまいますが、水道料金は府と市が合併すると上がり、大阪市民としては困ってしまいます。府として、市長として、二つの視点からのご意見をお願いします。

**竹山** 府の水道料金の方が高いため合併によって値上げするでは大阪市民は納得しませんから、私と橋下氏の間では「市の水道料金は一定年限は上げない事を前提に将来的にどうするかを議論しましょう」としていました。

**［質問］** 私は舞鶴市の観光商業課で観光コーディネーターをしていて堺市には旅行者やメディアの方を連れてよく行かせて頂きました。平成 29 年の世界文化遺産登録を目指してらっしゃるとの事ですが、受け入れ体制等はどのように進めてらっしゃいますか。

**竹山** まず、百舌鳥・古市古墳群は民家が密集しているエリアにあります。京都は広告物の規制をされていますが、古墳群周辺では規制がされていませんので、そういった既存不適格な部分をどのようにしていくか。また、高い建物の新設は認めないといった課題の克服が第一だと考えています。市民の気運を盛り上げ如何に国の気運に繋げるかが大事で、その辺りを文化庁、宮内庁を巻き込んでやりたいと考えています。

（2014 年 6 月 14 日）